

1 接触者健診（個別）

（1）実施時期別受診率

平成27年2月末現在

登録年		直後（X P）			2か月後（ツ反・QFT）			6か月後（X P）			1年後（X P）			年6か月後（X P）			2年後（X P）		
		対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率
24年	総計	1196	1137	95.1%	825	775	93.9%	445	356	80.0%	452	367	81.2%	391	288	73.7%	444	347	78.2%
	（再）喀痰塗抹陽性患者の接触者	848	810	95.5%	689	645	93.6%	380	305	80.3%	383	316	82.5%	332	252	75.9%	372	291	78.2%
25年	総計	1281	1243	97.0%	808	775	95.9%	410	360	87.8%	415	313	75.4%						
	（再）喀痰塗抹陽性患者の接触者	841	818	97.3%	608	590	97.0%	319	292	91.5%	327	275	84.1%						
26年	総計	1100	1058	96.2%	744	714	96.0%												
	（再）喀痰塗抹陽性患者の接触者	755	726	96.2%	600	576	96.0%												

注）健診結果が後に判明することにより、変動の可能性あり

○平成24～26年のいずれの年も直後・2か月後健診受診率は95%前後で最も高く、6か月後・1年後の受診率は80%前後と低下し、2年後はさらに低下していた。

（2）結核患者発見率

平成27年2月末現在

登録年		直後（X P）		6か月後（X P）		1年後（X P）		1年6か月後（X P）		2年後（X P）	
		患者数	発見率	患者数	発見率	患者数	発見率	患者数	発見率	患者数	発見率
24年	総計	22	1.93%	3	0.84%	0	0.00%	0.0	0.00%	1	0.29%
	（再）喀痰塗抹陽性患者の接触者	18	2.22%	3	0.98%	0	0.00%	0.0	0.00%	1	0.34%
25年	総計	9	0.72%	1	0.28%	0	0.00%				
	（再）喀痰塗抹陽性患者の接触者	7	0.86%	1	0.34%	0	0.00%				
26年	総計	9	0.85%	1	0.14%						
	（再）喀痰塗抹陽性患者の接触者	8	1.10%	0	0.00%						

注1）発見率は健診時期別受診者数を母数として算出

注2）健診結果が後に判明することにより、変動の可能性あり

○H24～26年のいずれの年も直後健診での患者発見率が最も高かった。

（3）LTBI治療適用者

平成27年2月末現在

登録年		LTBI治療適用者数	LTBI治療適用率
24年	総計	156	20.1%
	（再）喀痰塗抹陽性患者の接触者	140	21.7%
25年	総計	127	16.4%
	（再）喀痰塗抹陽性患者の接触者	99	16.8%
26年	総計	90	12.6%
	（再）喀痰塗抹陽性患者の接触者	85	14.8%

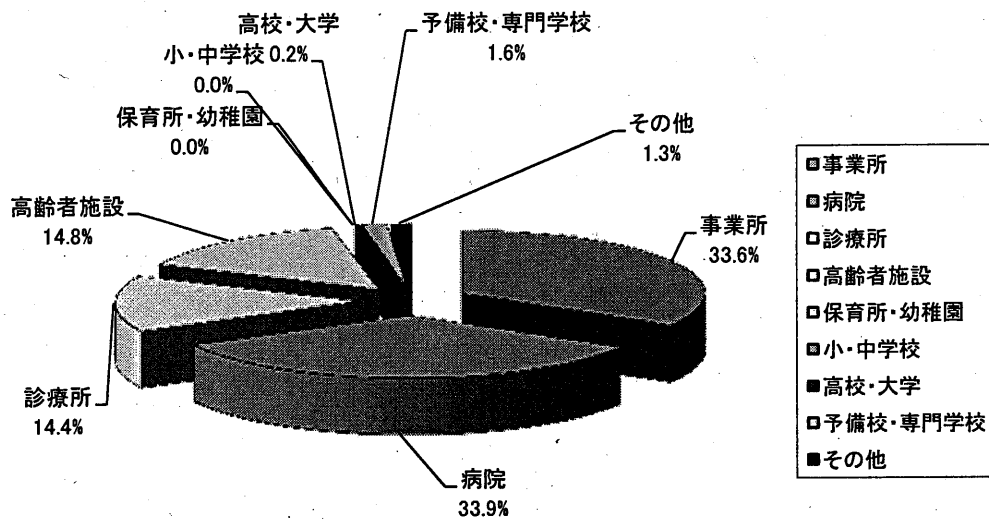
注1）LTBI治療適用率はツ反・QFT受診者数を母数として算出

注2）平成23年4月よりQFT対象年齢を原則49歳以下から54歳以下に拡大している。

○LTBI治療適用者は喀痰塗抹陽性患者の接触者が多くを占めており、適用率も全体と比べて高かった。

2 接触者健診（集団）

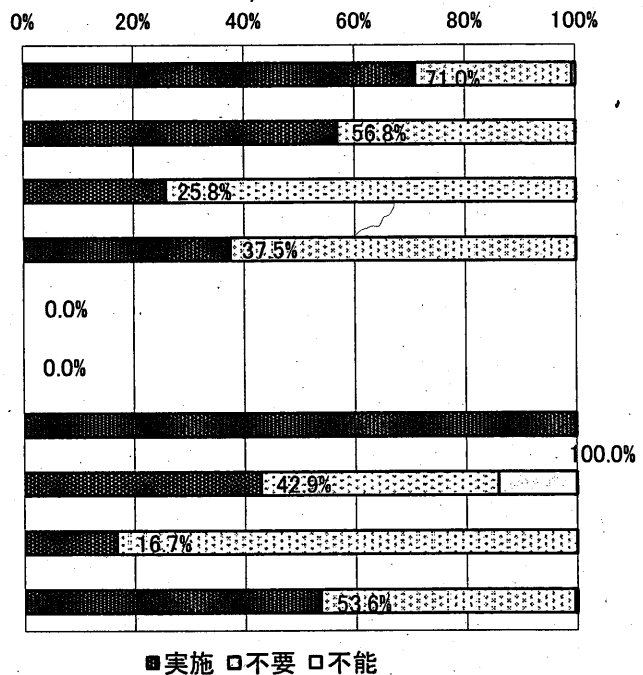
（1）検討対象集団の集団区分



- 検討依頼のあった集団の内訳をみると、医療機関（病院と診療所の和）が48.3%を占め、平成25年の43.3%より増加していた。検討依頼には高校・大学が1件含まれていた。

集団区分別検討結果

	実施	不要	不能	計
事業所	103	41	1	145
病院	83	63	0	146
診療所	16	46	0	62
高齢者施設	24	40	0	64
保育所・幼稚園	0	0	0	0
小・中学校	0	0	0	0
高校・大学	1	0	0	1
予備校・専門学校	3	3	1	7
その他	1	5	0	6
計	231	198	2	431



- 大阪市全体の実施率は平成25年52.7%から26年53.6%へと増加していた。集団区分別の平成25年から26年への実施率の推移をみると 診療所は34.8%⇒25.8%、高齢者施設42.9%⇒37.5%と減少しており、事業所58.7⇒71.0%、病院54.3⇒56.8%と増加していた。

(2) 実施時期別受診率

平成27年4月末現在

依頼年	直後 (X P)			2 か月後 (ツ反・QFT)			6 か月後			1年後			1年半後※			2 年後		
	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率
23年	664	641	96.5%	1350	1318	97.6%	622	534	85.9%	605	536	88.6%	122	105	86.1%	576	488	84.7%
24年	620	589	95.0%	1418	1362	96.1%	290	254	87.6%	278	228	82.0%	231	185	80.0%	273	222	81.3%
25年	651	613	94.2%	1418	1354	95.5%	218	197	90.3%	209	164	78.4%						
26年	611	581	95.0%	1304	1271	97.4%												

注) 健診実施中等不明であった結果が判明することにより変動の可能性あり

※平成24年度より、順次1年半後健診を実施。

- 平成26年は平成25年に比べ、直後・2か月後健診の受診率は増加している。
平成23年4月から感染診断の対象年齢が54歳以下、QFT検査が3Gになり、感染診断の感度・特異度が高くなり、6か月後健診の対象者数は2か月後健診の対象者数に比べ減少していた。

(3) 結核患者発見率

平成26年4月末現在

依頼年	発見 集団	直後		6 か月後		1年後		1 年半後		2 年後	
		患者数	発見率	患者数	発見率	患者数	発見率	患者数	発見率	患者数	発見率
23年	3	2	0.31%	1	0.19%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
24年	9	12	2.04%	2	0.78%	0	0.00%	1	0.54%	0	0.00%
25年	8	6	0.98%	1	0.50%	1	0.61%				
26年	5	8	1.37%								

注) 発病者数はRFLP/VNTR不一致、他に感染源ありと判断した数を除く
発見率は健診時期別受診者数を母数として算出

【再掲 6か月後健診以降の患者発見率】

依頼年	発見 集団	対象者	患者数	発見率
23年	1	576	1	0.17%
24年	3	273	3	1.09%

注) 発見率は2年後まで追跡を要する対象者数（追跡不可を含む）を母数として算出
胸部X線検査による追跡対象者からの患者発見率を表している。

(4) LTBI治療適用者

平成27年4月末現在

依頼年	LTBI治療 適用者数	LTBI治療 適用率
23年	185	14.0%
24年	127	9.3%
25年	129	9.5%
26年	131	10.3%

注) LTBI治療適用率はツ反・QFT受診者数を母数として算出

- 平成24年以降、LTBI治療適用率は、10%前後で推移している。

1 BCG接種

(1) 区別 BCGの接種状況（平成26年度）

区	出生数 (平成26 年)	BCG接種数					5か月から 8か月未満 BCG接種率	8か月未満 BCG接種率	1歳未満 BCG接種率
		総数	5か月未満	5か月から 8か月未満	8か月以上 1歳未満	特例実施			
大 阪 市	22,492	21,774	96	19,965	1,702	11	88.8%	89.2%	96.8%
北	1,170	1,103	4	1,014	84	1	86.7%	87.0%	94.2%
都 島	920	939	8	868	63		94.3%	95.2%	102.1%
福 島	791	783	1	751	31		94.9%	95.1%	99.0%
此 花	619	621	1	563	57		91.0%	91.1%	100.3%
中 央	920	785	1	784			85.2%	85.3%	85.3%
西	1,058	1,040	2	979	59		92.5%	92.7%	98.3%
港	604	612	1	567	44		93.9%	94.0%	101.3%
大 正	425	443	1	403	39		94.8%	95.1%	104.2%
天 王 寺	734	731	4	658	69		89.6%	90.2%	99.6%
浪 速	621	512	2	437	73		70.4%	70.7%	82.4%
西 淀 川	804	804	0	748	56		93.0%	93.0%	100.0%
淀 川	1,573	1,439	9	1,345	85		85.5%	86.1%	91.5%
東 淀 川	1,446	1,365	1	1,199	165		82.9%	83.0%	94.4%
東 成	663	660	3	597	60		90.0%	90.5%	99.5%
生 野	827	788	6	752	29	1	90.9%	91.7%	95.2%
旭	706	694	0	662	32		93.8%	93.8%	98.3%
城 東	1,475	1,359	11	1,244	104		84.3%	85.1%	92.1%
鶴 見	1,228	1,260	11	1,199	48	2	97.6%	98.5%	102.4%
阿 倍 野	855	853	2	798	53		93.3%	93.6%	99.8%
住 之 江	852	826	0	761	64	1	89.3%	89.3%	96.8%
住 吉	1,190	1,211	6	1,094	111		91.9%	92.4%	101.8%
東 住 吉	909	933	2	867	62	2	95.4%	95.6%	102.4%
平 野	1,569	1,509	14	1,243	249	3	79.2%	80.1%	96.0%
西 成	533	504	6	432	65	1	81.1%	82.2%	94.4%

※出生後、出生した区以外でBCG接種される児がいるため、出生数の母集団とBCG接種の母集団は異なっている。

- BCG接種率は、1歳未満では平成25年81.1%から平成26年96.8%と改善していた。25年度が低かったのは、4月に接種推奨時期が5から8か月へと変更されたため、4月～6月の期間に5か月未満児が接種を控えたことが一因と考えられた。

平成26年 コッホ現象の報告について

1. 区別件数

	BCG接種者数	コッホ 相談件数	コッホ 疑い事例	コッホ 確定事例	相談件数 合計	相談割合
北	1,103	2			2	0.18%
都島	939	12	1		13	1.38%
福島	783	1			1	0.13%
此花	621				0	0.00%
中央	785	1		1	2	0.25%
西	1,040	2			2	0.19%
港	612	3			3	0.49%
大正	443	4			4	0.90%
天王寺	731	5	1		6	0.82%
浪速	512	3			3	0.59%
西淀川	804				0	0.00%
淀川	1,439	2			2	0.14%
東淀川	1,365	7		2	9	0.66%
東成	660	6			6	0.91%
生野	788	3			3	0.38%
旭	694	9		1	10	1.44%
城東	1,359	1		1	2	0.15%
鶴見	1,260	9	1	2	12	0.95%
阿倍野	853	11			11	1.29%
住之江	826	2			2	0.24%
住吉	1,211	9			9	0.74%
東住吉	933	4			4	0.43%
平野	1,509	6	2	3	11	0.73%
西成	504	1			1	0.20%
合計	21,774	103	5	10	118	0.54%

2. コッホ疑い事例の経過

事例	局所反応		ツベルクリン 反応検査	局所反応	
	BCG接種直後	5～7日後		2週間後	4週間後
1	発赤有	発赤・硬結強	7日後 $\frac{9 \times 9}{9 \times 9}$	発赤・硬結減弱	発赤変化無 硬結増強
2	発赤・硬結弱	発赤減弱 硬結変化無	6日後 $\frac{0 \times 0}{9 \times 7}$	発赤・硬結変化無	発赤・硬結増強
3	発赤弱	発赤減弱 硬結・化膿増強	6日後 $\frac{0 \times 0}{0 \times 0}$	発赤増強, 硬結減弱 化膿減弱	発赤変化無 硬結・化膿減弱
4	発赤有	発赤変化無	6日後 $\frac{4 \times 3}{9 \times 7}$	発赤減弱	発赤減弱
5	発赤有	発赤弱～強 硬結弱	6日後 $\frac{0 \times 0}{5 \times 6}$	発赤・硬結減弱	発赤・硬結減弱 化膿増強

3. コッホ確定事例の経過

事例	局所反応		ツベルクリン 反応検査	局所反応	
	BCG接種直後	5～7日後		2週間後	4週間後
1	発赤弱	発赤・硬結・化膿 変化無	6日後 $\frac{8 \times 6}{13 \times 9}$	発赤・硬結・化膿 変化無	発赤・硬結・化膿 変化無
2	発赤有	発赤変化無、 化膿増強	6日後 $\frac{6 \times 4}{11 \times 10}$ (26×20)		発赤減弱、 硬結・化膿変化無
3	発赤・硬結有	発赤・硬結弱 化膿無	7日後 $\frac{6 \times 6}{11 \times 8}$		発赤・硬結減弱 化膿無
4	発赤強	発赤減弱, 硬結無 化膿増強	6日後 $\frac{4 \times 4}{8 \times 8}$ (12×15)	発赤・硬結・化膿 減弱	発赤・硬結・化膿 減弱
5	発赤・硬結・膿瘍有	発赤・硬結強 化膿弱	5日後 $\frac{12 \times 11}{20 \times 15}$	発赤・化膿減弱 硬結変化無	発赤・硬結変化無 化膿増強
6	発赤・化膿強	発赤減弱 硬結・化膿無	13日後 $\frac{11 \times 8}{11 \times 8}$	発赤変化無 硬結・化膿無	発赤変化無 硬結・化膿無
7	発赤弱	発赤減弱	5日後 $\frac{0 \times 0}{12 \times 7}$	発赤変化無	発赤・硬結増強
8	発赤有	針刺部のみ発赤 発赤減弱	13日後 $\frac{10 \times 7}{18 \times 14}$	発赤減弱 硬結無	
9	発赤有	発赤・硬結弱	7日後 $\frac{0 \times 0}{12 \times 10}$	発赤変化無 硬結減弱	
10	発赤有	発赤・硬結・化膿 減弱	5日後 $\frac{7 \times 6}{7 \times 6}$ (22×17)	発赤・硬結・化膿 減弱、痂皮形成	発赤・硬結・化膿 減弱

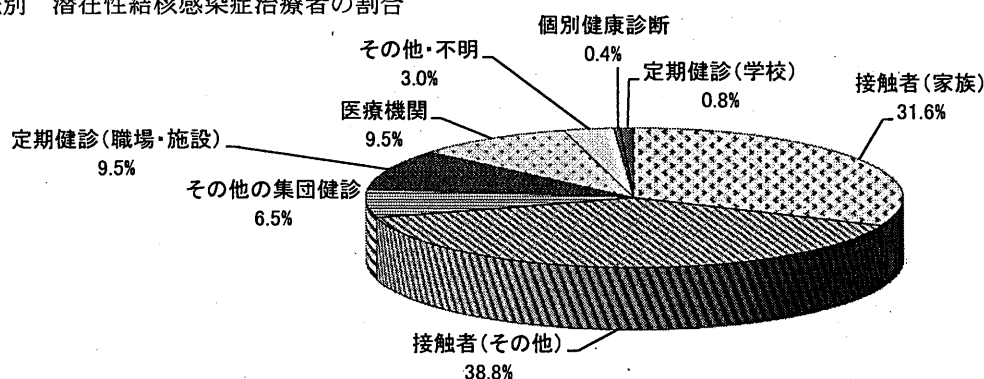
2 潜在性結核感染症治療者の状況

※ 国において潜在性結核感染症治療の年齢制限が平成19年8月に撤廃され、大阪市では平成20年5月からQFT検査を個別健診にも導入している。

(1) 区別 潜在性結核感染症治療対象者数（平成26年）

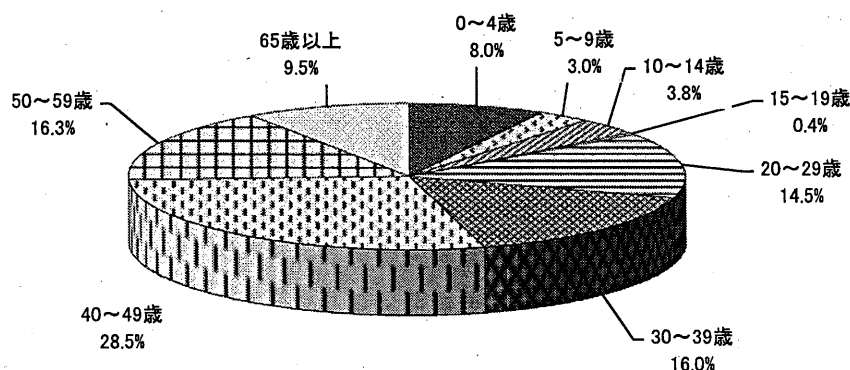
	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上	総計
大阪市	21	8	10	1	11	27	22	20	38	37	26	17	11	14	263
北	0	0	0	0	0	0	1	1	2	3	0	2	1	0	10
都島	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	5
福島	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	3
此花	0	0	0	0	0	1	2	2	1	0	1	0	0	0	7
中央	1	0	1	0	0	0	1	0	3	3	1	0	0	0	10
西港	0	0	2	0	1	1	2	0	2	0	1	1	0	1	11
大正	0	0	0	0	1	0	1	0	2	1	2	1	0	0	8
天王寺	1	0	0	0	0	2	1	0	2	0	1	0	1	1	9
浪速	1	0	0	0	0	0	1	0	1	2	1	1	1	2	10
西淀川	0	0	0	0	1	5	0	1	2	2	0	1	0	1	13
淀川	0	0	0	0	2	1	1	1	3	1	1	1	1	0	12
東淀川	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	2	0	1	0	7
東成	3	0	1	0	1	1	0	2	1	2	3	0	0	0	14
東成	1	1	0	0	0	2	0	0	1	2	0	0	0	0	7
生野	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	4
旭	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	2	0	7
城東	1	0	2	0	0	1	0	1	2	1	1	0	0	2	11
鶴見	1	0	1	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	0	10
阿倍野	3	1	1	0	0	0	1	3	1	3	0	0	0	0	15
住之江	1	0	0	0	0	6	1	3	1	3	0	0	0	0	18
住吉	3	2	1	0	2	0	1	1	1	1	3	1	0	2	18
東住吉	1	0	0	1	1	1	0	1	0	1	3	3	0	1	13
東住吉	1	2	1	0	1	2	1	0	4	2	0	2	0	2	18
平野	1	2	1	0	1	2	1	0	4	2	0	2	0	2	18
平野	3	2	0	0	1	0	2	1	1	3	0	1	2	1	17
西成	0	0	0	0	0	0	5	3	5	4	4	2	1	0	24

(2) 発見方法別 潜在性結核感染症治療者の割合



○ 接触者健診（個別と集団の和）は、平成25年80.3%から26年70.4%へと推移していた。
平成25年から26年にかけて、定期健診（職場・施設）は4.0⇒9.5%、医療機関8.7⇒9.5%へと推移していた。

(3) 年齢階級別 潜在性結核感染症治療者の割合



○ 平成25年から26年にかけて、4歳以下は7.6⇒8.0%、50歳以上は21.5⇒25.8%へと増加していた。
高齢者増加の要因は、接触者健診でより高い年齢の接触者に対しIGRAを実施するようになったこと、また免疫不全宿主に対しIGRAを実施したものが増加したためと考えられた。